

I：1－2。新しい環境の中で、自分の身の安全を考え、再び、アブラハムは、自分の妻、サラを自分の妹と言ってしまう。その言い訳を：11で「人々が私の妻の故に、私を殺すと思ったからです」と言っている。身勝手な理由である。：12で自分の異母兄弟同士で結婚したので、妻を、妹と言う事は全くの嘘ではないと、苦しい言い訳をしている。アブラハムが、妻を妹と言ったので「ゲラルの王アビメレクは、使いをやって、サラを召し入れた」：2。アブラハムは神を信じる選ばれた人。彼の神への信仰から多くの事を教えられる。しかし、聖書は、決して人間を理想化して表現しようとはしない。人間の罪、私達の中にもある罪が真実に記されている。神は、罪や欠点のある聖書の人物、そして罪ある私達を愛しておられる。受け入れ愛しつつ、愛をもって訓練し、主の姿に変えられ続けられる。アブラハムの生涯を貫いているテーマは、神の憐み、神の優しさ、神の義、それに対する応答としての信仰。この箇所も主役は、アブラハムではなく、憐み深い神。アブラハムは夫として、自分の大切な妻を裏切っている。自分の命を守る為に、妻を妹と呼び、自分を兄と呼ばせ、偽りの証言を他の人にも強いる。：13。その結果、サラの命を危険にさらしてしまう。これは主の御心に反する。サラは、ゲラルの王のところに連れて行かれる。アブラハムは、12章でもエジプトの王に同じ過ちを犯したが主の憐みのご介入で守られたのに、彼は変わっておらず同じ事をしてしまう。私達はどうだろうか？神の憐みに感謝し、繰り返さないように変えられるか。それとも神の「慈愛と忍耐と寛容とを軽んじる」（ローマ2：4）か。自分に当てはめ読んでみたい。神は、この度は、はっきりとご自分のご計画を示しておられた。アブラハムの妻であるサラから男の子が生まれ、その子が彼の後継人となる事をはっきりと示されていた。もはや知らないでしたと言い逃れは出来ない。

II こうした中で、サラを召し入れたアビメレクは夢を見る。：3。神は夢の中で仰せられた（神は、今は、御言葉、祈りの中での語り掛け、ある出来事を通して、ある人を通して私達に警告の語り掛けをして下さる）。「あなたが召し入れた女のために、あなたは死ななければならない。あの女は夫のある身である」：3。「アビメレクはまだ、彼女に近づいていなかったで、こう言った。「主よ。あなたは正しい国民をも殺されるのですか。彼は私に、『これは私の妹だ』と言ったではありませんか。そして、彼女自身も『これは私の兄だ』と言ったのです。私は正しい心と汚れない手で、このことをしたのです」神は…彼に仰せられた。「そうだ。あなたが正しい心でこの事をしたのを、わたし自身良く知っていた（※私達の事も良く知っておられる）。それでわたしも、あなたがわたしに罪を犯さないようにしたのだ。それゆえ、わたしは、あなたが彼女に触れることがないようにしたのだ。…今、あの人の妻を返していのちを得なさい。あの人は預言者であって、あなたのために祈ってください」：4－7。神は、私たち人間の弱さと限界をご存知の神は、私達を背後で守って下さる。愛と義の神は、私たち一人一人に本当に誠実であられる。神は、ご自身のご計画を進める為に、この問題に直接的に介入された。神は、アブラハムとサラを守られただけではなく、異邦人であるアビメレクが、さばかれて死ぬ事のないように、神ご自身が彼を守られたという意味でもある。「罪から来る報酬は死です」（ロー

マ6：23）と聖書は明確に述べている。愛の主の十字架の恵みがなければ、罪人である私達は、とっくに死に滅んでいるはず。今生かされ、赦され、愛されている事を感謝したい。驚くべき恵みにいつも驚き感謝したい！一方で神の聖さがある。この神の聖さの前に立つ事の出来る人はいない。弱く限界を持つ私たち人間は、知らず知らずに、ある時は意識的に罪を犯してしまう。それ故、神は、罪を私達に知らせ、警告し、気づかせ、守って下さる。神の聖さに打たれて死ぬ事のないようにして下さる。

Ⅲ アブラハムの知らない所でなされている神の配慮。アブラハムの失敗によって生じた破れを繕う神の姿がある。アブラハムの失敗により、アブメレクに罪を犯させる危険があった。私達の罪や失敗が、私たち自身だけの事で終わらず、他の人を巻き込んでしまうことがしばしば起こる。自分の責任が問われる事は当然。しかし、人間には限界があり、すべてを処理するのは不可能な面がある。それ故に、神が私達の破れ、失敗を繕って下さる。これが、神の恩寵に生かされる恵み。私達は、どれほど多くの失敗をしてきた事だろう。これから、生きる分だけ失敗の数も増えるとも言える。やがて、終わりの時、主の再臨の時、申し開きをしなければならぬ。だからこそ、今、間に合ううちに、一つ一つ悔い改め、赦しを求めたい。自分では到底償えない事を認め、神の憐みにすがりたい。神は、私達の破れ、失敗を繕い、必要な助けの御手を差し伸べて下さる素晴らしいお方。失敗だらけの私達を見捨ててしまわれるお方ではない。尚も私達を愛して下さる。そのような私達を懲りずに、主の為に用いて下さる。アブラハム、そして私達の知らない所で神の憐みがなされている。いかに主が多く、私達自身の弱さの為にとりなし、私達の破れを背後で繕って下さっていることか！私達は神の計り知れない恵みと憐れみを覚え感謝すべき。自分の事は棚に上げて、「あなたのせいでこうなった」と他人を責める。その時、今日まで神が、「私の破れ失敗を繕い、赦し憐れんで来て下さった」恵みを忘れないようにしたい。

Ⅳ 今回のアブラハムの失敗の原因は、人を恐れ（「この地方には、神を恐れることが全くないので、人々が私の妻のゆえに、私を殺すと思ったからです」：11）、偉大な神を信頼しなかった事。神への信仰を働かせず、自分の誤った考えで問題を回避しようとする私達にもある姿。神の恵みに生きるとは、徹頭徹尾、神を信頼して、人や問題ではなく主を恐れ敬い信頼して生きるという事。失敗しても、憐み深い神は、私達を立ち直らせて下さる。最後に聖書全体からの理解が必要である。神の約束の子を産むという使命を与えられた愛する妻のサラを危険な目に二度も合わせた責任に関して、何の取り扱いもないという事ではない。その事は、やがてサラから生まれる最愛の息子イサクを「全焼のいけにえ」としてささげよとの神の命令によって、挑戦されているとも考えられる。せっかくの約束の子供をいけにえとしてささげてしまえば、アブラハムに与えられたご計画はどうなるのか。祝福の約束はどうなるのか。サラがアブラハムによって危険にさらされたように、子供が危険にさらされる。しかし、この試みを受けるまでに、彼の信仰、神への信頼は着実に練られて行く。私達一人一人も神の恵みのご計画に生かされている事を深く覚えたい。主の尽きない恵みと憐れみに心から感謝したい。背後で私達の破れ、失敗を繕われる神の優しさに心から感謝したい。